

# M-AUDIO®




# KEYSTATION 88

---

ユーザ・ガイド

# 安全にお使いいただくために

## この取扱説明書で使用している危険防止のマーク

-  このマークは、操作とメンテナンスにおける重要な指示があることを示しています。
-  このマークは、適切な電圧で機器を使用しないと、感電の恐れがあるという警告です。
-  このマークは、ご利用の出力コネクタが感電を起こす恐れのある電圧を含んでいるという警告です。

## 製品をご使用の際は、使用上の注意に従ってください。

1. 注意事項を読んでください。
2. 注意事項を守ってください。
3. すべての警告に従ってください。
4. すべての注意事項に従ってください。
5. 水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は、乾いた布を使用してください。液体洗剤は、フロントパネルのコントロール装置を損なったり、危険な状態を招いたりする恐れがあるので、使用しないでください。
7. 取扱説明書に従って設置してください。
8. 暖房器具や調理器具、アンプを含むそのほかの音楽機器など、熱を生じる機器の近くには、置かないでください。
9. 電源プラグは、危険防止のために、正しく使用してください。アース端子付の電源プラグは、2つのブレードのほかに棒状のアース端子が付いています。これは、安全のためのものです。ご利用のコンセント差込口の形状に合わないときは、専門の業者にコンセントの取り替えを依頼してください。
10. 電源コードを誤って踏んだり、挟んだりしないように注意してください。特にプラグ部、コンセント差込口、本装置の出力部分に注意してください。
11. 付属品は、メーカーが指定しているものを使用してください。
12. 音響機器専用の台車、スタンド、ブラケット、テーブルに載せて使用してください。設置の際、ケーブルの接続や装置の設置方法が、損傷や故障の原因にならないよう注意してください。
13. 雷が鳴っているときや、長時間使用しないときは、プラグを抜いてください。
14. 修理やアフター・サービスについては、専用窓口にお問い合わせください。電源コードやプラグが損傷したとき、装置の上に液体をこぼしたり、物を落としたりしたとき、装置が雨や湿気にさらされたとき、正常に動作しないとき等、故障の際は、修理が必要となります。
15. 本装置は、正常に動作していても熱を発生しますので、周辺機器とは最低 15 センチ離し、風通しの良い場所でご利用ください。
16. 本装置をアンプに接続して、ヘッドフォンやスピーカで長時間、大音量で使用すると、難聴になる恐れがあります。(聴力低下や、耳鳴りを感じたら、専門の医師にご相談ください)。
17. 水がかかるような場所に置かないでください。花瓶、缶飲料、コーヒーカップなど、液体が入ったものを本装置の上に置かないでください。
18. 警告：火災や感電防止のため、雨や湿気にさらさないでください。

[ WEB ] <http://numark.co.jp/m-audio/>

**M-AUDIO**® <お問い合わせ>

株式会社ニューマークジャパンコーポレーション

カスタマ・サポート部

〒106-0047 東京都港区南麻布3-19-23

オーク南麻布ビルディング6階

TEL : 03-6277-2231 FAX : 03-6277-0025

## ユーザ・ガイド

### はじめに

M-Audio Keystationシリーズをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。Keystationシリーズは、Windows でも Mac でも簡単に音楽制作環境の統合を図るようデザインされたペロシティ・センシティブのUSB キーボードで、49 鍵盤、61 鍵盤、88 鍵盤の三種類をラインアップしました。Keystation 61 と 88 にはセミウェイトド鍵盤を装備し、コンパクトで手軽な MIDI コントローラに本格的なピアノタッチを実現しています。音楽制作や音楽教育用の多様なミュージック・アプリケーションに最適な Keystation シリーズには、モジュレーション、ピッチベンド・ホイールに加えてアサイン可能なボタンやスライダが装備され、またクラス・コンプライアントなため、Windows XP/Vista/7/8 や Mac OS X にはプラグ&プレイで簡単に導入可能です。ご使用になる前に必ず本書をよくお読みになり、正しい操作方法、高度な機能性、プログラミング方法などを習得していただくことをお勧めします。

### 同梱物

- ・ Keystation キーボード本体
- ・ USB ケーブル
- ・ Ableton Live Lite
- ・ User Guide (英文)
- ・ Safety & Warranty Manual (英文)

### サポート

Keystation シリーズの各モデルの最新情報につきましては、製品ページをご覧ください。  
[http://numark.co.jp/m-audio/keystation\\_series/](http://numark.co.jp/m-audio/keystation_series/)

また、製品のサポートにつきましては、以下のページをご覧ください。  
<http://numark.co.jp/m-audio/support/>

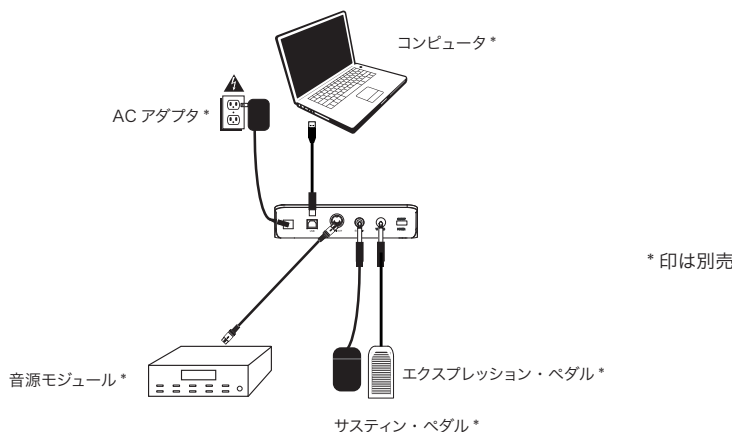
## クイックスタート

### キーボードを接続する前に

Keystation のキーボードは、USB バスパワーで動作します。コンピュータに装備された USB 端子や外部電源を使用する USB ハブに接続することをお勧めします。USB ケーブル 1 本で電源を供給するだけでなく、コンピュータとキーボードの間で MIDI データを送受信することもできます。

また、Keystation キーボードは、別途 Apple iPad Camera Connection Kit をご用意いただければ、iOS デバイスと接続可能です。

## 接続図



## 初期設定

インストール作業を完了した後に MIDI アプリケーションの設定をする必要があります。Keystation は本体にサウンドのプリセットを搭載していないため、そのままでは鍵盤を押しても音は出ません。鍵盤を押すと Keystation から MIDI データのみが送信されるからです。MIDI データはどのような音が演奏されるのかについての指示を与えますが、実際にその音を聴くには、Keystation から送られてくる MIDI データを読み込んで指示通りにその音を演奏するように MIDI アプリケーションを設定する必要があります。この設定には、一般に、MIDI アプリケーションのオプションメニューやデバイス設定メニューにおいて適切な機器を選択する必要があります。Keystation は、Windows では「USB オーディオデバイス (USB Audio Device)」などとして表示され、その他のオペレーティングシステムでは、音楽アプリケーションの MIDI デバイスセクションの中に「Keystation (49、61、88)」として表示されます。正しい設定作業については、MIDI アプリケーションのマニュアルをご参照ください。

## 各部の機能

### トップパネル

#### キーボード

白鍵と黒鍵にはそれぞれ役割の名称が表示されています。これらの鍵盤を使って、MIDI チャンネルの設定やトランスポーズ、プログラム・チェンジ情報の送信などを行います。

#### オクターブ・ボタン

オクターブ「+」ボタンを一回押すと、オクターブ「-」ボタンの上の LED が消えキーボードが現在 1 オクターブ高い状態であることを示します。再びオクターブ「+」ボタンを押すと、キーボードは 2 オクターブ高い状態になります。以後、同様にシフトアップします。キーボードはオクターブシフト 0 の状態から音域を上下にそれぞれ最高 3 オクターブ変化させることが可能です。

オクターブ「-」ボタンを押すと、オクターブ「+」ボタンの上の LED が消え 1 オクターブ下がります。もし、オクターブ「-」ボタンの上の LED のみが点灯している場合は、まだ 0 設定より低いオクターブであることを示します。オクターブ「+」ボタンの上の LED のみが点灯している場合は 0 設定より高いオクターブを示します。

キーボードのオクターブシフトを「0」設置の状態に戻すにはオクターブ「+」ボタンとオクターブ「-」ボタンを同時に押します。両方の LED が点灯して、オクターブシフトが「0」に戻ったことを示します。

## **ボリューム・スライダ**

ボリューム・スライダは演奏されるノートのボリューム（音量）をコントロールするための MIDI メッセージを送り出します。

ボリューム・スライダに、パン（バランス）、アタック、リバーブ、コーラス、その他多くのエフェクトをアサインすることもできます（詳しくは「アドバンスド・ファンクション」の項をご参照ください）。

## **ピッチベンド・ホイール**

ピッチベンド・ホイールは、キーボードで弾いたノートのピッチ（音程）を上下に変化させるのに使います。これを使用すると、一般のキーボード演奏では見られないギタースタイルのリフ等のフレーズを演奏することができます。ノートの変化の幅は音源によって異なります。一般的な設定は 2 セミトーン（半音）ですが、最大上下 2 オクターブまで設定できます。

## **モジュレーション・ホイール**

モジュレーション・ホイールは、演奏中の音声のモジュレーションを行うのに使います。この種のリアルタイム・コントローラは、元来、電子キーボード楽器で、アコースティック楽器の演奏者と同様のビブラート等のオプションを提供するために導入されました。ピッチベンド・ホイールと同様に、モジュレーション・ホイールは MIDI アサイン可能です。

## **アドバンスド・ファンクション (Advanced Functions) ボタン**

鍵盤の左側の「Advanced Functions」ボタンを使って他のアドバンスド機能が利用できます。

このボタンを押すと、キーボードは編集モードになり、鍵盤を使って機能の選択やデータ入力ができます。

Advanced Functions ボタン上のランプが点灯している時は、キーボードが編集モードであることを示します。編集モードではキーボードの黒鍵盤は機能を選択するのに使い、白鍵盤はデータ入力と MIDI チャンネル選択に使います。

機能を選択し終わるか、CANCEL 鍵盤または ENTER 鍵盤を押すと、編集モードは終了し（Advanced Functions ボタンの上のランプが消えます）、キーボードは通常の演奏モードに戻ります。

ヒント：詳しくは「アドバンスド・ファンクション」の項をご参照ください。

## **十字ボタン**

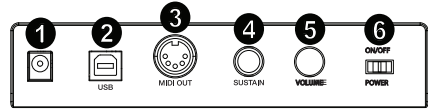
これらのボタンは、Mackie Control や HUI プロトコルに対応したソフトウェアをコントロールするために使用します。詳しくは、「十字ボタンとトランスポート・ボタン」の項をご参照ください。

## **トランスポート・ボタン**

これらのボタンは、Mackie Control や HUI プロトコルに対応したソフトウェアをコントロールするために使用します。詳しくは、「十字ボタンとトランスポート・ボタン」の項をご参照ください。

## リアパネル

1. **AC アダプタ端子**：コンピュータと接続せずに外部音源モジュールなどをコントロールするには、別売の AC アダプタ (9VDC/200mA/ センタ+) を使用します。



2. **USB 端子**：USB ケーブルでコンピュータと接続します。

3. **MIDI 出力端子**：5 ピンの MIDI ケーブル（別売）を使用して、外部 MIDI 機器と接続します。

4. **サステイン・ペダル端子**：アンラッチ・タイプのフットスイッチ（別売）を接続します。スイッチを押すと、キーボードを押さえ続けることなく、演奏した音を持続します。

**ヒント**：Keystation キーボードは、電源投入時にサステイン・ペダルの極性を自動的に認識しますので、キーボードの電源を入れる前にペダルを接続してください。もし、ペダルの動きが効果と逆になってしまった場合は、ペダルを踏みながら Keystation の電源をオンにしてください。

5. **エクスプレッション・ペダル端子**：1/4" TRS のエクスプレッション・ペダルを接続します。

6. **オン / オフ・スイッチ**：キーボードの電源をオン・オフします。

## アドバンスド・ファンクション

オクターブ「+」「-」ボタンは、初期設定オクターブシフトが行えるように設定されています。このボタンで、オクターブ・シフト設定以外にも 5 種類の MIDI 機能をコントロールすることもできます。

最初の 6 つの黒鍵盤はオクターブ・ボタンを設定する鍵盤です。これらの鍵盤でオクターブ・ボタンの機能が選択できます。選択できる機能には、マイナスの値を送信しないものもあります。この場合、ボタンの上の LED は両方とも点灯したままの状態になります。

ボタンの機能を選択するには：

1. Advanced Functions ボタンを押して、キーボードを編集モードにします。
2. 該当する黒鍵盤を押します。黒鍵盤を押すと編集モードは終了し、演奏モードに戻ります。

## オクターブ・シフト

オクターブ「+」「-」ボタンは、初期設定オクターブシフトが行えるように設定されています。このボタンで、オクターブ・シフト設定以外にも 5 種類の MIDI 機能をコントロールすることもできます。

最初の 6 つの黒鍵盤はオクターブ・ボタンを設定する鍵盤です。これらの鍵盤でオクターブ・ボタンの機能が選択できます。選択できる機能には、マイナスの値を送信しないものもあります。この場合、ボタンの上の LED は両方とも点灯したままの状態になります。

ボタンの機能を選択するには：

1. Advanced Functions ボタンを押して、キーボードを編集モードにします。
2. 該当する黒鍵盤を押します。黒鍵盤を押すと編集モードは終了し、演奏モードに戻ります。

オクターブ鍵盤を使つてのオクターブ・シフトは、オクターブ・ボタンをオクターブ・シフト以外の MIDI コントロールに使用している時に、オクターブシフトを素早くできる有効で便利な方法です：

1. Advanced Functions ボタンを押して、キーボードを編集モードにします。
2. 「OCT +」を表す黒鍵盤 (Bb2) を押すと 1 オクターブだけ上がります。再び押すと 2 オクターブ上がるという具合にオクターブを上げていくことができます。「OCT -」を表す黒鍵盤 (F#2) を押すと 1 オクターブだけ下がります。再び押すと 2 オクターブ下がるという具合にオクターブを下げていくことができます。また、「OCT 0」を表す黒鍵盤 (G#2) を押すとオクターブ・シフト設定が 0 にリセットされます。
3. オクターブ・シフトの選択が終わったら、「ENTER」を表す C5 を押して編集モードを終了します。

## トランスポーズ

1 オクターブ上下するよりも数セミトーンだけピッチを上下させたい場合に有効なのがトランスポーズ機能です。例えば、ある曲をボーカリストと演奏していて、最も高い音程の発声ができない時などには、ピッチを 1~2 セミトーン下げるとうまくいくこともあります。これはトランスポーズという MIDI 機能で行うことができます。

トランスポーズには、シフト幅が  $\pm 12$  であるという点を除けば、上記のオクターブ・シフトと同様の操作をします。オクターブ・シフトと同様、トランスポーズにも 2 通りの方法があります。オクターブ「+」「-」ボタンを使うか、または黒鍵盤「TRANS -」「TRANS 0」「TRANS +」を用います。

オクターブ「+」「-」ボタンにトランスポーズ機能をアサインするには：

1. Advanced Functions ボタンを押してキーボードを編集モードにします。
2. 「TRANS」を表す黒鍵盤 (D#1) を押します (「TRANS」を押すと編集モードは終了します)。
3. 「+」ボタンを押すと演奏中のノートのピッチが高くなるのがわかります。
4. トランスポーズをキャンセルするには「+」と「-」を同時に押します。

## MIDIチャンネル

キーボードからは MIDI データを MIDI チャンネル 16 系統のいずれでも送信することができます。しかし、MIDI 機器や MIDI ソフトウェアによっては、特定のチャンネルで送ることが要求される場合があります。この場合、データ送信チャンネルを以下のように変更できます。

1. Advanced Functions ボタンを押してキーボードを編集モードにします。
2. MIDI チャンネルを表す CH1~CH16 鍵盤 (D1~E3) の内、いずれか該当するものを押します。

例えば、10 チャンネルでデータ送信しなければならない外部機器を接続する場合、Advanced Function ボタンを押して「CH10」の鍵盤 (F2) を押して 10 チャンネルを選択します。オクターブ「+」「-」ボタンを使ってチャンネルを選択することもできます。この場合、「+」「-」ボタンを使ってチャンネルを 1 つずつ上げ下げします。

16 チャンネルが設定された状態でオクターブ「+」ボタンを押すと 1 チャンネルが選択されます。チャンネル選択にオクターブ「+」「-」ボタンを使用する場合、(マイナスのチャンネルはないので) ボタン上のランプの点灯表示は変わりません。「+」「-」ボタンを同時に押すと 1 チャンネルが選択されます。

## プログラムチェンジ

プログラムチェンジは楽器またはボイスを変更するときに使います。一例として、楽器をベース音に変えてみます。アコースティック・ベースを選択するプログラムチェンジ 32 を送信します。プログラムチェンジを送信するには 2 通りの方法があります：

**インクリメンタル / デクリメンタル (+1/-1) 式プログラムチェンジ：**

1. Advanced Functions ボタンを押します。
2. 「PGM CHANGE」を表す黒鍵盤 (F#1) を押します。
3. これでオクターブ「+」「-」ボタンを使ってプログラムチェンジができます。
4. 鍵盤を弾きながらお望みの楽器が見つかるまで「+」ボタンを押します。

**直接選択式プログラムチェンジ：**

1. Advanced Functions ボタンを押します。
2. 「Program」を表す、F4 の右の黒鍵盤 (F#4) を押します。
3. 「3」「2」「ENTER」を表す鍵盤 C4、E3、C5 を順次押します。あるいは「+」「-」ボタンを使って数値を変えてから「ENTER」を押します。これでキーボードは GM ベース音 32 を演奏するように設定されました。

上の方法は、ある曲にどのサウンドが最も適しているか、楽器を次々と代えながら聴いて選ぶ際に便利です。下の方法は、この例の場合のように特定の番号を選択する場合に便利です。オクターブ「+」「-」と腕を使ってプログラムチェンジする場合、(マイナスのプログラム番号はないので) ボタン上のランプの点灯表示は変わりません。「+」「-」ボタンを同時に押すとグランドピアノに相当するプログラム 0 が選択されます。

## バンクセレクトLSBとバンクセレクトMSB

プログラムチェンジは、楽器またはボイスを変更するのに最もよく使われるメッセージです。しかし、プログラムチェンジでアクセスできる楽器の数は 128 に制限されています。機器によっては 128 以上のボイスを内蔵したものもあり、それらのボイスにアクセスするには特別な方法が要求されます。一般的にこうした機器では、バンク LSB とバンク MSB のメッセージを用います。

### インクリメンタル / デクリメンタル (+1/-1) 式バンク LSB とバンク MSB チェンジ :

1. Advanced Functions ボタンを押します。
2. 「BANK LSB」を表す黒鍵盤 (G#1) を押します。
3. これでオクターブ「+」「-」ボタンを使ってプログラムチェンジができます。
4. 鍵盤を弾きながら望みの楽器が見つかるまで「+」ボタンを押します。

### 直接選択法 :

1. Advanced Functions ボタンを押します。
2. 「BANK LSB#」を表す黒鍵盤 (G#4)、または「BANK MSB#」を表す黒鍵盤 (A#4) を押します。
3. 「3」「2」「ENTER」を表す鍵盤 C4、E3、C5 を順次押します。あるいは、「+」「-」ボタンを使って数値を変えてから、「ENTER」を押します。

プログラムチェンジと同様、オクターブ「+」「-」ボタンを使って「バンクセレクト LSB」または「バンクセレクト MSB」の番号を変更する場合 (上記 1 の方法)、マイナスの番号はないのでボタン上のランプの点灯表示は変わりません。「+」「-」ボタンを同時に押すとバンク 0 が選択されます。

## ボリューム・スライダ

モジュレーションホイールと同様に、ボリューム・スライダには本マニュアル末に記載されている 131 種類のエフェクトのいずれでもアサインすることができます。

ボリューム・スライダにエフェクトをアサインする方法 :

1. Advanced Functions ボタンを押して、キーボードを編集モードにします。
2. 「FADER」を表す黒鍵盤 (D#4) を押します。
3. 数値データ入力鍵盤 G3~B4 を使い、ボリューム・スライダにアサインしたいエフェクトの番号を入力します。
4. 「ENTER」鍵盤 (C5) を押します。

もしくは、あるいは、「+」「-」ボタンを使って番号を変更します :

1. Advanced Functions ボタンを押して、キーボードを編集モードにします。
2. 「FADER」を表す黒鍵盤 (D#4) を押します。
3. 「+」「-」ボタンを使って番号を変更します。
4. 「ENTER」鍵盤 (C5) を押します。
5. エフェクトを強くするにはボリューム・スライダを上 (リアパネルの方向) に動かします。

数値データを入力する際に間違えた場合は、「CANCEL」鍵盤 (C1) を押して編集モードを終了させます。この場合、ボリューム・スライダにアサインされているエフェクトは変わりません。

キーボードの電源を OFF にすると、ボリューム・スライダにアサインされたデータは失われます。キーボードの電源を ON にすると、ボリューム・スライダには初期値としてボリューム (エフェクト番号 07) がアサインされます。



## モジュレーション・ホイール

MIDI エフェクトをモジュレーション・ホイールにアサインすることができます。一般的なエフェクトとして次のようなものがあります。

- MIDI CC 01 : モジュレーション
- MIDI CC 07 : ボリューム
- MIDI CC 10 : パン (バランス)
- MIDI CC 05 : ボルトメント

全部で 131 種類のエフェクトがあります。これらのエフェクトを音声に実際にかけるには、MIDI エフェクトメッセージを受信する MIDI 機器がこれを読み込み実行できなければなりません。多くの機器では少なくとも、ボリューム、モジュレーション、パンは実行可能です。

モジュレーション・ホイールに MIDI エフェクトをアサインする方法：

1. Advanced Functions ボタンを押して、キーボードを編集モードにします。
2. 「WHEEL」を表す黒鍵盤 (C#4) を押します。
3. 数値データ入力鍵盤 G3~B4 を使い、モジュレーション・ホイールにアサインしたいエフェクトの番号を入力します。

あるいは「+」「-」ボタンを使って番号を変えることもできます。希望の番号を選んだ後、「ENTER」鍵盤 (C5) を押します。

エフェクトを強くするにはモジュレーション・ホイールを上 (リアパネル方向) に動かします。数値データを入力する際に間違えた場合は、「CANCEL」鍵盤 (C1) を押して編集モードを終了させます。この場合、モジュレーション・ホイールにアサインされていたエフェクトは変わりません。

キーボードの電源を OFF にすると、モジュレーション・ホイールにアサインされたデータは失われます。キーボードの電源を ON にすると、モジュレーション・ホイールには初期値としてモジュレーション (エフェクト番号 01) がアサインされます。

一例として、モジュレーション・ホイールにエフェクト番号 10 (パンまたはバランス) をアサインしてみます。

1. Advanced Functions ボタンを押して、キーボードを編集モードにします。
2. 「WHEEL」を表す黒鍵盤 (C#4) を押します。
3. A3 を押して「1」を入力します。
4. G3 を押して「0」を入力すると、「10」を入力したことになります。
5. C5 を押して「ENTER」を入力します。

## 十字ボタンとトランスポート・ボタン

十字ボタンとトランスポート・ボタンは、Mackie Control や HUI プロトコルに対応したソフトウェアをコントロールするために使用します。

Mackie Control か HUI を選択するには：

1. Advanced Functions ボタンを押して、キーボードを編集モードにします。
2. 「MACKIE/HUI」を表す鍵盤 (F3) を押します。  
**ヒント：**「+」と「-」LED が緑に点灯している場合は、MACKIE モード、赤く点灯している場合は、HUI モードです。
3. 「ENTER」鍵盤 (C5) を押します。  
**ヒント：**お使いのソフトウェア側も Keystation からコマンドを受信するように設定する必要があります。Keystation の MACKIE Control/HUI のコマンドはポート 2 から送信されます。

ご使用中に次のようなトラブルが生じた場合には、以下の指示に従って操作してください。

**問題 1：インストール後は適切に動作していたのに突然動作しなくなった。**

**解決 1：**電源を切って 10 秒間置いてください。その後、コンピュータを再起動して再度お試しください。それでも解決しない場合は、ドライバを再インストールする必要があるかもしれません。

**問題 2：サスティン・ペダルをキーボードに接続したが逆操作になっている。**

**解決 2：**サスティン・ペダルの極性は、キーボードの電源が入った段階で検知されます。電源 ON 時に、サスティン・ペダルは OFF の位置になっているとみなされます。従って、サスティン・ペダルを押えていない状態を OFF に設定したい場合は、サスティン・ペダルが押えられていないことを確認してから電源を入れてください。

**問題 3：鍵盤を押してから音が鳴るまでに時間のずれがある。**

**解決 3：**この遅れはレイテンシと呼ばれています。MIDI 信号のレイテンシはご使用のソフトシンセに起因しています。MIDI データはコントロールデータに過ぎません。MIDI はソフトシンセによって読み取られます。その後、ソフトシンセは実際の音を作り出すために複雑な計算を数多く実行します。この処理には時間がかかるのです。

高品位のオーディオ・インターフェイスをご使用になることをお勧めします。オーディオ・インターフェイスの選択については、弊社カスタマ・サポートまでお問い合わせください。またレイテンシの値を減らすには、ご使用のソフトウェア内のオーディオの初期設定（またはオーディオのオプション）の選択肢の中から新しいドライバを選択する必要があります。オーディオの初期設定の方法が分からない場合は、ご使用のソフトウェアに付属の説明書をご参照ください。

### MIDIの問題が発生した場合

Keystation シリーズのキーボードは、コンピュータの MIDI 作業を簡単にできるように設計されています。しかし、時には作業がうまく行かない場合も起こり得ます。多くの場合、キーボードに原因があるのではなく、受信 MIDI 機器の方に問題があります。こうした時に役立つ MIDI 機能が 2 種類あります。

#### オールノートオフ

鳴り止まないノートがある場合に、「オールノートオフ」の MIDI メッセージを以下のように送信します：

1. Advanced Functions ボタンを押して、キーボードを編集モードにします。
2. 「ALL OFF」を表す黒鍵盤 (D#3) を押します。
3. 編集モードは終了し、ノートは鳴り止みます。

#### リセット・オールコントローラ

ボイスに不要なエフェクトがかかっている場合、それが何かのエフェクトがわからなくても「リセット・オールコントローラ」MIDI メッセージを送信して全てのエフェクトを 0 にリセットできます。

1. Advanced Functions ボタンを押して、キーボードを編集モードにします。
2. 「RESET」を表す黒鍵盤 (C#3) を押します。
3. 編集モードは終了し、全てのエフェクトは消えます。

#### 工場出荷時へのリセット

1. Keystation の電源を切ります。
  2. 「ADVANCE」「OCT+」「OCT-」ボタンを押し続けます。
  3. Keystation の電源を入れます。
  4. 三つのボタンから手を話します。
- キーボードは、工場出荷時の状態に戻ります。

## MIDI 出力

キーボードの背面には MIDI 出力端子があり、外部サウンドモジュールまたは MIDI キーボードに接続できます。すべてのコントローラデータは USB 出力とともに MIDI 出力からも送信されるように、デフォルトとして（電源を入れた時点で）設定されています。MIDI 出力を従来の USB-MIDI インターフェイスとしてお使いになりたい場合は、次の手順で「USB から MIDI 出力」モードに切り換えて下さい。

1. Advanced Functions ボタンを押して、キーボードを編集モードにします。
2. 「MIDI OUT FROM USB」を表す黒鍵盤（D#2）を押します。
3. 編集モードは終了します。
4. これで、キーボードがコンピュータから受けたデータを MIDI 出力端子から接続された機器に出力できます。

## ホイールやスライダーに割り当て可能なMIDIコントロールチェンジ情報

00 Bank Select	38 Data Entry LSB	112 Controller 112
01 Modulation	39 Channel Volume LSB	113 Controller 113
02 Breath Control	40 Balance LSB	114 Controller 114
03 Controller 3	41 Controller 41	115 Controller 115
04 Foot Control	42 Pan LSB	116 Controller 116
05 Porta Time	43 Expression LSB	117 Controller 117
06 Data Entry	44 Controller 44	118 Controller 118
07 Channel Volume	45 Controller 45	119 Controller 119
08 Balance	46 Controller 46	<b>Channel Mode Messages:</b>
09 Controller 9	47 Controller 47	120 All Sound off
10 Pan	48 Gen Purpose 1 LSB	121 Reset all Controllers
11 Expression	49 Gen Purpose 2 LSB	122 Local Control
12 Effects Controller 1	50 Gen Purpose 3 LSB	123 All Notes Off
13 Effects Controller 2	51 Gen Purpose 4 LSB	124 Omni Off
14 Controller 14	52 Controller 52	125 Omni On
15 Controller 15	53 Controller 53	126 Mono On (Poly Off)
16 Gen Purpose 1	54 Controller 54	127 Poly On (Mono Off)
17 Gen Purpose 2	55 Controller 55	<b>Extra RPN Messages:</b>
18 Gen Purpose 3	56 Controller 56	128 Pitch Bend sensitivity
19 Gen Purpose 4	57 Controller 57	129 Fine Tune
20 Controller 20	58 Controller 58	130 Coarse Tune
21 Controller 21	59 Controller 59	131 Channel Pressure
22 Controller 22	60 Controller 60	
23 Controller 23	61 Controller 61	
24 Controller 24	62 Controller 62	
25 Controller 25	63 Controller 63	
26 Controller 26	64 Sustain Pedal	
27 Controller 27	65 Portamento	
28 Controller 28	66 Sostenuto	
29 Controller 29	67 Soft Pedal	
30 Controller 30	68 Legato Pedal	
31 Controller 31	69 Hold 2	
32 Bank Select LSB	70 Sound Variation	
33 Modulation LSB	71 Resonance	
34 Breath Control LSB	72 Release Time	
35 Controller 35	73 Attack Time	
36 Foot Control LSB	74 Cut- off Frequency	
37 Porta Time LSB	75 Controller 75	
38 Data Entry LSB	76 Controller 76	
39 Channel Volume LSB	77 Controller 77	
40 Balance LSB	78 Controller 78	
41 Controller 41	79 Controller 79	
42 Pan LSB	80 Gen Purpose 5	

## 付録

### 技術仕様

電源：USB バスパワー

サイズ (W x H x D)：約 1368 x 92 x 250mm

重量：約 7.7kg

### 商標およびライセンス

M-Audio は inMusic Brands, Inc., の商標で、米国およびその他の国々で登録されています。

Mackie Control と HUI は LOUD Technologies Inc. の商標または登録商標です。

Mac と iPad、OS X は Apple Inc., の商標またはサービス・マークであり、米国およびその他の国々で登録されています。

Windows は、米国およびその他の国々において、Microsoft Corporation の登録商標です。

その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

# M-AUDIO®

---

[numark.co.jp/m-audio](http://numark.co.jp/m-audio)